

「お金の使い方」

土田 あゆみ （岡山県立岡山操山高等学校 1年）

まだ私達は高校生だから、自分達でお金をかせいでいるわけではない。なかにはアルバイトか何かをして自分でお金をかせいでいる人もいるだろうが、それ以外の人は親からお金をもらっているのではあろう。最近お金を大事に使う人が少なくなってきている。それはまだ自分で働いて、お金をかせいだことがないからだと思う。私の友達にもお金を粗末に扱う子がいた。しかし、自分で働くようになってお金への考え方が変わったという。今までは感じなかったありがたみが分かったというのだ。というのは、いくらたくさん働いても、給料は少ないそうだ。だからそれゆえに今まで簡単に使ってきた100円、1000円が大事に思えてきたという。そして同時に親にも感謝するようになったそうだ。私もお金を荒く使ってしまふことがある。でもこの子話を聞いて、自分がとても恥ずかしく思ったし、考え方も変わった。つまりお金を大事に使う人が少なくなってきたということは、いいかえればお金のありがたみが分かってなく、親にも感謝できていないということだ。お金があつて当然だとか、親が働くのは当然と思っているに違いない。そんな人は働いてみればいいのだ。私もまだ働いたことがないからよくは分からないが、きっと自分で考えるよりも大変なことだと思う。そしてその経験は将来自分のためになるであらう。しかし現実には高校生が働くのは無理であることもある。そんな人は今まで買った物を持ち出し、自分の目の前に並べてみるといい。本当に必要なものだったのか、いくらしたか、これを買うために親はどれだけ働いたのだろうか、など考えてみるのだ。するとあまり必要でない物、高価すぎるものがでてくるだろう。そしてどんなに安い物でも、親が一生懸命に働いたことが伝わってくるであらう。私はソフトテニス部に入っている。ソフトテニスに必要な物は、ラケット、テニスシューズ、グリップ、スポーツソックス、サンバイザー、ユニフォームなどたくさんあるのだ。しかも中学生の時からのので、ラケットは今までに3本、テニスシューズ、スポーツソックスなど何度にもわたって買い変えてきた。その時は新しい物が欲しくてしょうがなく、親に無理を言って買ってもらっていたのだ。今こうしてお金のことについて考えてきて、本当に親に申し訳なく思う。そして感謝もする。最近では前よりも物を大切に扱ってきているし、我慢もするようになった。私はいろいろな工夫をしてお金について考えてみる必要があると思う。間違つたお金の使い方をする人が減つてくると思うからだ。

次に「お金」という本質について考えてみよう。そもそも「お金」とは物を買うために支払うものである。お金さえあれば物は手に入るのである。だからこの世の中は「お金」が一番だと勘違いしてしまう人がいるのだ。そんな人は、何でも「お金」で解決しようとしてしまう。例えば何か問題が起これば、それを鎮めるために相手にお金を渡す、子供を有名な学校に入れたいために、多額のお金を寄付する、どんなに高価な物でも何も考えずに、お金で買ってしまふなどである。初めのころの例では全く人の気持ちを考えていないのだ。また「お金」がたくさんあることで自分を強く見せたいとしているのであらう。それでは人の気持ちも自分も傷つけてしまっている。それでは、そのような使い方では「お金」がかわいそうである。またそのような人は「お金」を使う資格がないはずである。いや、あつてはいけないのだ。そんな悲しい使い方しかできない人は、お金がなく、食べる物もない貧しい人にあげるべきなのである。そうすると、「お金」も喜ぶだろうし、貧しい人も自分も喜ぶことができるのではないだろうか。お金の本来の目的とは、物を買う一つの手段であると共に、自分や人を喜ばす一つの手段でもあるのだ。最近では「不景気」とい

われているが、自分達の周りでお金を目にすることがよくあると思う。しかし、どんなにたくさん流出していて、手に入りやすくてもお金の本来の目的、価値は変わらない。だから間違っただけの使い方、考え方、低い価値の見方はしてはいけないのだ。また正しい使い方をし、みんなが「お金」を大事に思い我慢したりして世の中が、「不景気」になっているのなら、何も不平不満、文句を言う必要がないのではなかろうか。「不景気」になればなるほど、「お金」は大事に使われているのだな、と思ってもよいのではないだろうか。「お金」のことを大事に思うのなら、「お金」をたくさん使わせて好景気にさせ、国を安定させるよりも、このまま「不景気」がずっと続けばいいな、とさえ思ってしまう。

「お金」のいいところはたくさんある。欲しい物が手に入る、食べることができる、家族が養える、自立できる、親孝行できる、趣味や夢などにつぎこむことができるなどだ。どれもこれも、「お金」を通して喜びを得ているのである。しかしそれは、「お金」の価値、ありがたみが分かった上でモノを買うことによって初めて、自分自身のまた人の喜びを得るものであり、「お金」によって人の気持ちは買えることができず、また価値が分からなく間違っただけの使い方をすれば、人どころか自分自身の喜びも得ることができない。何でもお金で買えちゃう世の中だからこそ、低くなってきてしまった「お金」の価値を考えてみるべきだと思う。そしてみんなが「お金」を大事に思い、人を喜ばせられるようになれば、国も豊かになっていくのではないだろうか。「お金」をどのように使うかでこんなにも違ってくるのである。